



国立大学アドミッションセンター 連絡会議ニュース

第3号

2006年1月

国立大学アドミッションセンター連絡会議 第3回総会開催

2005年6月1日10時から、メルパルク東京牡丹の間において、国立大学アドミッションセンター連絡会議第3回総会が開催されました。今回の総会には、加盟13大学及びオブザーバーの5大学(横浜国立大学、新潟大学、静岡大学、岡山大学、愛媛大学)から63名が出席しました。また、来賓として文部科学省から松川誠司高等教育局大学振興課大学入試室長をお迎えし、ご挨拶をいただきました。

総会では、役員改選、新加盟の承認及び協議事項に引き続いて、3大学(旭川医科大学、北海道大学、静岡大学)から、各大学の入試組織・活動についての報告及び質疑応答があり、最後に東北大学から同大学入試センター設置に伴う関係組織移行の説明があり、12時に閉会しました。

以下は、総会議事要録、総会における会長及び来賓挨拶の要旨です。紙面の都合上、全文掲載できませんことをご了承くださるようお願いいたします。

アドミッションセンター連絡会議 第3回総会議事要録

日時	平成17年6月1日(水) 10時～12時
場所	メルパルク東京 牡丹の間(3階)
出席者	18大学(13加盟大学及びオブザーバー5大学)から63名
来賓	文部科学省高等教育局大学振興課大学入試室長

1 開会(東北大学 石井光夫教授)

開会宣言の後、参加大学・来賓の紹介及び議事次第の確認を行った。

2 役員の変更

任期満了に伴う会長及び事務局長の改選について、昨年の総会において承認された選出手続きに則り、幹事による協議を行った結果、柴田洋三郎現会長(九州大学アドミッションセンター長)の留任、山根一秀筑波大学アドミッションセンター長の事務局長就任を推薦することとなった旨の説明があり、承認された。

承認後、山根新事務局長から就任の挨拶があった。

なお、会則第5条に規定する幹事については、これまで同様北海道大学、東北大学、筑波大学及び九州大学から選出された運営委員に依頼することが承認された。

3 新加盟の承認

静岡大学からの加盟申請について説明があり、承認された。

なお、事務局から、会則第4条第2項(加盟機関)の改正について、「静岡大学全学入試センター」を加える他、旭川医科大学、東北大学及び広島大学における組織の名称並びに高知医科大学と高知大学との統合による大学の名称を改めること、また、大学の記載順を文部科学省大学一覧の記載順に合わせることをしたい旨の説明があり、承認された。(会則後掲)

4 協議事項

(1) 会費徴収について

連絡会議運営のための経費として加盟大学から会費を徴収することについて、事前に検討を依頼していたところ、連絡会議と大学法人との関連において、(特に支出に際して)事務処理上の支障は生じないかとの質問があり、協議の結果、次期事務局となる筑波大学において、事務の取扱い方法を検討のうえ加盟大学に照会し、各大学の了承が得られた場合は、今年度より会費を徴収することが承認された。

なお、会費の徴収が承認されることを条件とし、会則第8条に基づく『アドミッションセンター連絡会議運営費規程』を(後掲のとおり)定めることが併せて承認された。

(2) 共同研究について

九州大学武谷峻一教授(ワーキンググループ座長)から、ワーキンググループにおいて策定した次期科学研究費補助金申請のための実施計画及び方針の案について、以下のとおり説明があり、原案のとおり承認された。

また、今後もワーキンググループを存続させ、科学研究費補助金申請の時期までに細部の検討を行うことが併せて承認され、具体的な予定として、9月5日及び6日に開催予定の筑波大学白川友紀教授を研究代表者とした共同研究のシンポジウムの機会等を利用し、関係者の意見聴取を行いたい旨説明があった。

○方針

- ・加盟全大学を含む総括的なものとし、AC連絡会議会長を代表者とする。
- ・AO入試そのものを扱うものを課題とし、最終年度が国立大学AC発足10年目となることから、最終年度に「国立大学AO入試の10年」(仮題)と銘打ったシンポジウムを開催する。
- ・参加大学が増加するため、研究分担者は各大学及び大学入試センターから各1名程度とする。

○次期科学研究費補助金申請のための実施計画

年 度	平成18～20年度
番 号	基盤研究(A)(1)
課 題	(仮題)大学受験生の多様な資質を見るAO入試の実証的研究 -アドミッションポリシーと選抜方法、教育システム間の整合性の検証-
代表者	九州大学・理事・副学長 柴田洋三郎(国立大学AC連絡会議会長)
分担者	20～25名 (AC連絡会議加盟大学及び大学入試センターから各1名程度)
経 費	千円

なお、協議終了後、筑波大学白川教授から、9月5日及び6日に開催される共同研究のシンポジウムについての説明があった。

5 大学からの報告

以下のとおり3大学から報告があった。

- (1) 旭川医科大学 『AO入試について』
- (2) 北海道大学 『入試組織の改組について』
- (3) 静岡大学 『全学入試センターの組織・活動について』

6 閉会

鴨池 治事務局長(東北大学入試センター長)から、東北大学大学入試センター設置に伴う関係組織の移行について説明があった後、閉会となった。

柴田会長 ご挨拶要旨

本連絡会議総会も第3回を迎え、国立大学入学者選抜研究連絡協議会と同日に同一会場で開催されることとなりました。

これもひとえに、各大学アドミッションセンター関係の皆様のご努力に対する社会的評価の表れと思っております。

アドミッションオフィス又はアドミッションセンターが国立大学に設置された当初は様々な議論があり、AO入試は日本には根付かないのではとの冷ややかな見方もありましたが、現在、推薦及びAO入試が入学者選抜の一つとして社会的に認知されてきたということは、まことに同慶に絶えないところであります。

今年度の統計によれば、前期及び後期日程試験以外の入試による入学者はほぼ一割に達しようとしており、その割合は今後ますます増えていくものと期待されます。

また、今回の本連絡会議総会には、加盟13大学の他、新たな加盟申請1大学及びオブザーバー4大学が参加しており、その他にも参加を計画している大学がいくつかあると聞いており、今後更に増えて行くことを期待しつつ、社会的な期待の大きさを受けて我々も努力していく必要があるかと思えます。

国立大学の法人化に伴い、各大学においては様々な入学者選抜を検討しておられると思いますが、ぜひ、本連絡会議の成果が国立大学入試、ひいては日本の大学入試に良い影響を与え、大学教育に値する人材の選抜について新たな展開が開ければと期待しております。

本日は、活発なご議論を展開していただき、実りあるものとしていただきたいと思います。

来賓・松川誠司文部科学省大学入試室長 ご挨拶要旨

先生方におかれましては、日頃より入試関係業務にご尽力いただき感謝申し上げます。

本連絡会議も3回目の総会を迎えられ、着実な活動を続けておられることに対しまして、敬意を表したいと思います。

既にご承知のとおり、本年1月28日に中央教育審議会から示された、我が国の高等教育の将来像についての答申において、当初の予想より2年早い平成19年に、いわゆる大学全入時代を迎えることとなることが予測されており、このような状況の中で優秀な学生確保のための競争が厳しくなってくるであろうと思っております。

また、答申では、我が国の高等教育がユニバーサル段階を迎えていることも指摘されており、それぞれの大学がアドミッションポリシーを明確にし、選抜方法の多様化を図るなど入学者選抜に関して個性を発揮することが期待されております。

入学者選抜の多様化・個性化ということについては、これまでも各大学において、鋭意取り組みを進めて来られたことと思いますが、入試の多様化の切り札としてAO入試が注目されているところであり、アドミッションセンター等入試専門組織の役割が大変重要であると思っております。

また、平成18年度から、高等学校の新学習指導要領により学んだ生徒が受験することとなりますが、学習指導要領の問題、高校生の学力問題等について様々な意見があり、文部科学省においても中央教育審議会等で議論されているところでもあります。

一方、高等学校からは、知識や理解を問うような問題ではなく、思考力や判断力を問うような問題を中心とした入学試験に変える工夫をしてもらいたいとの声も寄せられており、これらの問題を大学全体で検討していくうえで、アドミッションセンターの活躍が期待されております。

本日の総会で、様々な情報交換、或いは各センター間での交流が進められ、我が国全体の入試改善が進むことを期待しております。

大学からの報告

報告 1

AO入試について

発表者：旭川医科大学入学センター 坂本 尚志 教授

1 AO入試導入の経緯

中央教育審議会及び大学審議会答申並びに医学・医療懇談会提言を受け、大幅な教育改革が行われ、その一環としてAO入試を導入することとなった。

2 選抜方法の基本方針

学力に偏重しない選抜、丁寧な選抜を基本方針とし、面接主体の選抜を行うこととした。

3 実施状況

入学定員の10%を募集人員として実施。

平成14年度の第1回AO入試では、志願者倍率0.9倍であったが、現在では、医学科約6倍、看護学科約3倍となっている。

4 選抜方法

二段階選抜を実施。

① 1次選抜(募集人員の2倍程度を選抜)

書類(調査書、自己推薦書、自己活動の記録、課題論文)及び集団面接により判定

② 2次選抜

集団面接(セミナー形式面接、模擬チュートリアル、グループ活動課題)、個人面接(2回)及び学長面接により判定

5 入学前指導

英語(既成の通信教育利用)、課題図書感想文提出、センター試験受験等を課している。

6 AO入試入学者の評価

学力については、他の入試により入学した者との比較において問題はない。

学力以外の評価尺度が必要であると思われるが、教育改革に伴い、知識(学力)以外の技術、態度、意欲の評価尺度の確立が進行している。

7 今後の課題

アドミッションポリシーに沿った選抜、面接員の育成、適切な評価尺度の確立等

8 平成18年度AO入試

平成18年度から推薦入試と一体化し(医学科20名、看護学科10名の募集を)実施することとなった。

1次選抜における(学力評価を含めた)適性試験の導入、1次選抜と2次選抜を分離(1次選抜の得点を2次選抜に加えない)する。

報告 2

入試組織の改組について

発表者：北海道大学高等教育機能開発総合センター
入学者選抜研究部長 加茂 直樹 教授

○改組に至る経緯

法人化に伴う委員会組織の統廃合により、平成16年度は入試について検討を行う組織を持たない状態であり、新たな組織を発足することが急務であった。

新組織の発足にあたり、①AO入試と一般選抜の実施組織を一元化する。②総長の下に置かれる教育改革室と密接に結び付いたものとする等の趣旨を含め、新アドミッションセンターが発足した。

○新アドミッションセンターの組織

教育改革室(室長：副学長)の下、「調査分析部門」、「企画部門」、「広報・相談部門」、「実施部門」の4部門で構成

○各部門の業務分担

「調査分析部門」

- ・入学者選抜結果の調査研究及び入学者選抜方法の調査分析・提言
- ・入学者へのアンケート実施及び分析

「企画部門」

- ・入学者選抜制度の検討及び企画

「広報・相談部門」

- ・入学希望者に対する広報及び受験相談

「実施部門」

- ・大学入試センター試験、個別学力検査、AO入試及び帰国子女特別選抜の実施

○問題点

アドミッションセンターが発足してもなお、各入試毎の委員会や出題部会、採点部会、また、試験問題の検討委員会等があり、完全な一元化は困難である。

報告 3

全学入試センターの組織・活動について

発表者：静岡大学全学入試センター長 寺下 榮 教授

〔目的〕

入学者選抜に関する企画・広報及び情報処理についての調査研究を行うものであるが、今年度より、AO入試の一部門を担うこととなった。

〔組織〕

- ・企画広報部門 教員 2 名
- ・情報処理部門 教員 2 名

〔企画広報部門の組織・運営〕

全学入試センター企画広報部門教員及び各学部から選出の委員 6 名で組織し、以下の業務にあたる。

- ①入試に係る調査・研究、入学者の分析に基づき入試方法の改善案を提案する。
- ②入試に係る広報計画を企画・立案し、学内各種委員会と連携し効果的な広報活動を展開する。
- ③入試に関連する高大連携を企画し実施する。
- ④入試に係る事故の未然防止対策を策定する。
- ⑤その他入試に関する特命事項についての調整・検討・提言を行う。

〔活動実績〕

- 入試に係る調査・研究
 - ・入試広報の効果測定など全学的に取り組むべきテーマを調査
- 入試方法の改善及び入学者の分析
 - ・平成 18 年度入試科目の策定や AO 入試実施に関する助言・提言
 - ・新生アンケートの実施
- 入試に係る広報計画・広報活動
 - ・総合案内の編集
 - ・オープンキャンパスの実施
 - ・土曜進学相談会の実施
 - ・願書配付会の実施
 - ・各種進学相談会への出席
- 入試に関する高大連携
 - ・入試説明会（高校教諭対象）の実施
 - ・学内見学会への対応
- 事故の未然防止対策
 - ・合否判定資料の全学統一化等

〔今後の課題と取組〕

- 入試に係る調査・研究
 - ・入試広報の効果測定など継続調査
- 入試方法の改善及び入学者の分析
 - ・平成 19 年度以降の選抜方法を検討（学部主導から経営問題に）
 - ・AO入試の拡大と入学前教育の実施（センター規則の見直しを含む）
- 入試に係る広報計画・広報活動
 - ・総合案内の編集
 - ・オープンキャンパスの実施（学部主導から全学的な取組に）
 - ・土曜進学相談会の実施（新 AO を模索）
 - ・各種進学相談会への出席（大学全体の会を検討（他大学との連携））
- 入試に関する高大連携
 - ・入試説明会（高校教諭対象）の実施（周辺エリアにも拡大）
- 事故の未然防止対策
 - ・シンプルな入試への転換

国立大学アドミッションセンター連絡会議会則

制定 平成15年6月4日

改正 平成17年6月1日

(名称)

第1条 本会は国立大学アドミッションセンター連絡会議と称する。

(目的)

第2条 本会は、高等学校・大学間の接続関係の改善及び加盟機関における入学者選抜等の業務改善に関する研究協議を行い、あわせて加盟機関相互の交流促進を図ることを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため、必要な事業を行う。

(構成員)

第4条 本会は、国立大学のアドミッションセンター、及び国立大学において高等学校・大学間の接続関係の改善に関する研究及び実践に携わる機関によって構成する。

2 本会の加盟機関は、次に掲げる機関とする。

北海道大学高等教育機能開発総合センター

旭川医科大学入学センター

東北大学入試センター

筑波大学アドミッションセンター

福井大学アドミッションセンター

静岡大学全学入試センター

京都工芸繊維大学アドミッションセンター

鳥取大学アドミッションセンター

広島大学入学センター

山口大学アドミッションセンター

高知大学アドミッションセンター

九州大学高等教育総合開発研究センター

長崎大学アドミッションセンター

鹿屋体育大学アドミッションセンター

3 新たに入会しようとする国立大学の機関は、総会の承認を得るものとする。

(役員)

第5条 本会に以下の役員を置く。

一 会長 1名

二 事務局長 1名

三 運営委員 各加盟機関からの代表 1名

四 幹事 運営委員の中から会長の委嘱 4名

2 会長及び事務局長は総会において選出する。任期は2年とし、再選を妨げない。

3 役員は加盟機関の代表をもって、これにあてる。

(役員の職務)

第6条 会長は、総会を招集し、その議長となる。

2 事務局長は、本会の運営に必要な事務全般を行う。

3 運営委員は、本会の運営に携わる。

(事務局)

第7条 本会に、本会の事務を処理するための事務局を置く。

2 事務局は、事務局長の所属する機関に置く。

(雑則)

第8条 この会則に定めるもののほか、事業の実施に関し必要な事項は本会が別に定める。

附 則

この会則は、平成15年6月4日から施行する。

附 則

この会則は、平成17年6月1日から施行する。

国立大学アドミッションセンター連絡会議運営費規程

制定 平成17年6月1日

(趣旨)

第1条 国立大学アドミッションセンター連絡会議会則第8条により、国立大学アドミッションセンター連絡会議(以下「連絡会議」)の運営費について、本規程を定める。

(会費)

第2条 連絡会議の運営費は、加盟機関が支払う会費を持って充てる。

2 加盟機関は、毎年、会費を事務局に支払うものとする。

3 会費は30,000円とする。

(会計)

第3条 運営費の会計は事務局において処理する。

(会計報告)

第4条 事務局は各年度の会計報告を総会において行い、承認を得なければならない。

附 則

この規程は、平成17年6月1日から施行する。

国立大学アドミッションセンター連絡会議役員 2005年度

会 長：柴田洋三郎(九州大学アドミッションセンター長)

事務局長：山根一秀(筑波大学アドミッションセンター長)

運営委員：下表

幹 事：下表の*

国立大学アドミッションセンター連絡会議運営委員

所 属	職 名	氏 名	TEL	メールアドレス
北海道大学	入学者選抜 研究部長	加茂直樹 *	011-706-3923	nkamo@pharm.hokudai.ac.jp
旭川医科大学	教 授	坂本尚志	0166-68-2631	sakamoto@asahikawa-med.ac.jp
東北大学	教 授	石井光夫 *	022-217-5408	mitsuo-ishii@mail.tains.tohoku.ac.jp
筑波大学	センター長	山根一秀 *	029-853-7380	flagship@md.tsukuba.ac.jp
福井大学	センター長	都司達夫	0776-27-8578	tsuji@pear.fuis.fukui-u.ac.jp
静岡大学	センター長	寺下 榮	054-238-2447	terashita@adb.shizuoka.ac.jp
京都工芸繊維大学	助教授	内村 浩	075-724-7092	uchimura@kit.ac.jp
鳥取大学	教 授	中村肖三	0857-31-5840	snakam@zim.tottori-u.ac.jp
広島大学	教 授	杉原敏彦	082-424-5839	tosisugi@hiroshima-u.ac.jp
山口大学	センター長	岡村康夫	083-933-5045	ac-okamu@yamaguchi-u.ac.jp
高知大学	センター長	八木文雄	088-880-2271	yagif@med.kochi-u.ac.jp
九州大学	教 授	武谷峻一 *	092-642-4489	takeya@ac.kyushu-u.ac.jp
長崎大学	教 授	大作 勝	095-819-2115	ohsaku@net.nagasaki-u.ac.jp
鹿屋体育大学	センター長	松下雅雄	0994-46-4977	m-matsu@nifs-k.ac.jp

編集後記

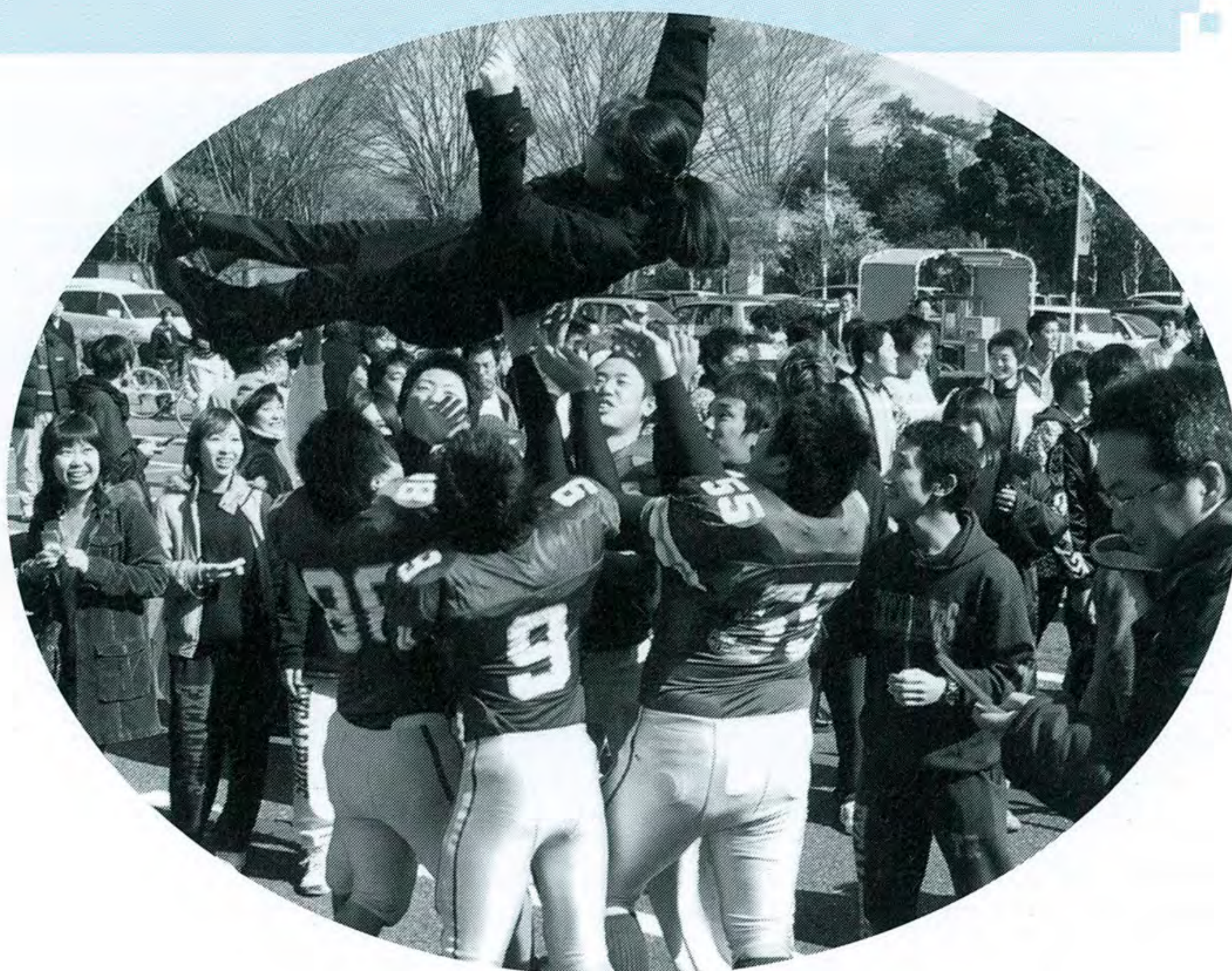
連絡会議ニュース第3号をお届けします。事務局を筑波大学が引き継ぎましたが、前任の東北大学が作成されたこれまでのニュースが良くできていますので、そのレイアウトを踏襲しました。総会の議事内容や各大学からの報告は当日のメモ等を基に概略をまとめさせて頂きましたので、ご了解頂きたいと思います。

総会以降の本連絡会議に関連した活動としては、次の2つがあります。

1. シンポジウム「高大接続のための大学入試～高大接続とAO入試」
本連絡会議の設立目的の一つである「高大接続及び入学者選抜等の改善に関する研究協議」活動の一環として、多くの連絡会議メンバーが出席してシンポジウムが開催されました。2日間にわたり活発な討議が行われたことは、本連絡会議が十分に機能していることを示していると思われれます。
2. 総会でご承認頂きました方針に従い、今年度から各大学のご協力により会費を徴収することになり、会費が集まりつつあります。本連絡会議活動の安定した基盤ができるものと期待されます。

法人化後2年が過ぎようとしていますが、入学者選抜に関しては大きな変化は見られません。これから大きな改革が行われる可能性が高いと思われれます。その際に、各大学においてはアドミッションセンターに入試の専門家としてのアイデアや構想が求められることが予想され、これまで以上にアドミッションセンター、ひいては本連絡会議の役割が大きくなることが予想されます。

今後とも連絡会議をよろしくお願いいたします。 (K.Y)



国立大学アドミッションセンター連絡会議ニュース 第3号

発行：国立大学アドミッションセンター連絡会議

編集：筑波大学アドミッションセンター（連絡会議事務局）

〒305-8577 茨城県つくば市天王台 1-1-1

TEL:029-853-7385・7386 FAX:029-853-7392



古紙配合率100%再生紙を使用しています



環境にやさしい大豆油インキを使用しています